

京都式農福連携の中期取組方針及び計画（骨子案）

平成30年3月
京都農福・戦略会議

1. 中期運営方針の目的と考え方
 - ・ 中期運営方針の想定期間：5年間
 - ・ 本方針の位置づけ：戦略的な事業を展開するための行動指針
 - ・ 本会議として京都府全体の農福連携の推進に当たっての専門的な意見具申

2. 農福連携の現状と課題 ※現状については、骨子案では省略。

[地域連携]

- ・ 地域毎の課題に対して、地域の対応力が弱くなっている
- ・ 少子高齢化が進むな中で、縦割りでのサービス維持・確保は難しい
- ・ 福祉事業所が近隣農家とうまく協力できていない

[人材育成]

- ・ 障害のある方の就労面でのキャリアアップが見えづらい
- ・ 農業関係企業等に就職できる障害者が極めて少ない
- ・ 福祉事業所における支援員が農業技術を向上させる機会がない

[生産拡大]

- ・ 農産物の販売先が限定されており、大きな収益につながっていない
- ・ 農福連携に関する農業側のメリットが見えづらい
- ・ 十分な耕地面積を確保できていない

3. 中期運営方針で目指す具体的な目標
 - ▶ 農福連携を行う事業所の増加
 - ▶ 農福連携を通じた工賃向上・就労促進
 - ▶ 京のノウフク認証の拡大
 - ▶ 地域共生の推進
 - ▶ 人材育成

4. 中期運営方針で目指す対応策

[地域連携]

- ・ 多種多世代が交流する地域共生の取組みの推進
(マルシェをはじめとした地域交流イベントの拡充など)
- ・ 雇用機会の創出、市町村との連携事業の推進
- ・ 府民理解の促進 (ワークショップの開催など)

[人材育成]

- ・ チャレンジアグリ認証基礎課程の実施と上位課程の検討
- ・ 農福連携事業所への農業系人材の登用促進
- ・ 大学連携の推進 (農業技術の向上、就労機能性の向上支援など)

[生産拡大]

- ・ 農福連携製品の6次産業化・ブランディング支援
(「京のノウフク」認証の拡大、分業化の促進、他産業連携の推進)
- ・ 農業側の需要を踏まえた農作業等のマッチング支援
(京都産農産物の生産調整システムの構築など)
- ・ 補助制度の活用による生産性拡大の調査・検証

5. 計画 (骨子)

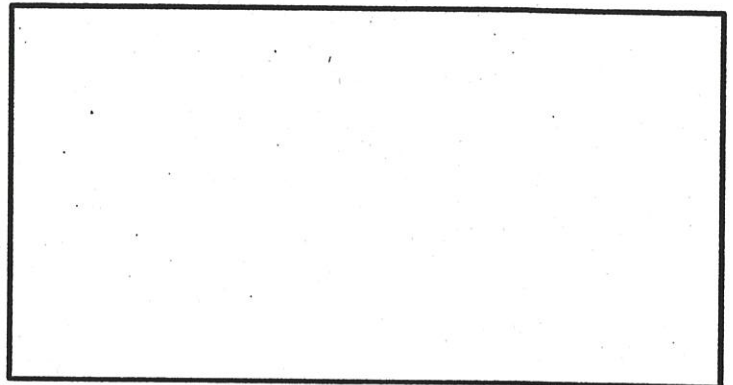
※本日の議論を踏まえ検討

京都式農福連携の中期取組方針及び計画
～具体的な対応策～

[地域連携]

- ・地域毎の課題(少子高齢化など)に対して、地域の対応力が弱い。

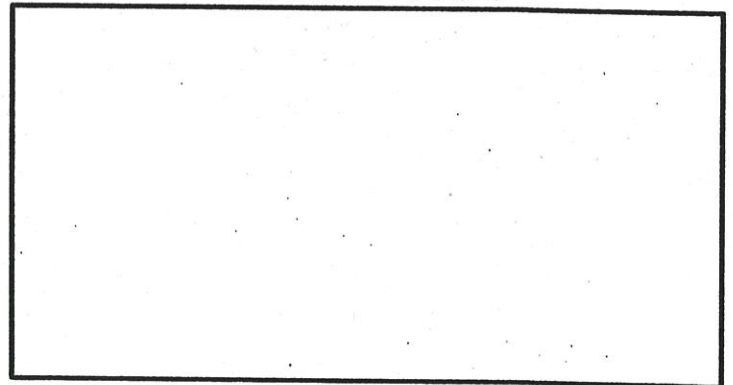
効果的な方法



[人材育成]

- ・障害がある方のキャリアアップや、支援員の技術向上の機会がない。

効果的な方法



[生産拡大]

- ・収益が出せるビジネスモデルや、農業側の利益創出が課題。

効果的な方法

